

# 2025年度ファカルティ・ディベロップメント活動の状況

本学のファカルティ・ディベロップメント（以下、「FD」と表記する）は、大学全体及び各学部・研究科による様々な活動が展開されている。

## 1. 全学的な活動

### （1）教育改善に関する取組み

「高等教育研究・開発センター」を設置し、全学的な教育支援体制に関する諸施策の企画及び開発や、組織的かつ継続的に教育内容及び教育技法の改善を支援し、本学の教育の充実と発展に寄与することを目的として、以下の取組みを行っている。また、これらのFDに関する取組みを集約し、「年報」として発行している。

#### <学習と授業に関するアンケート>

学部において、学習と授業の振り返りを通じた学びの改善を趣旨とし、「学習と授業に関するアンケート」を実施しており、履修科目における到達目標の達成度に関する設問を主とし、「学習者本位の教育」の実現を目指した学習成果を可視化するツールとしての活用を図っている。毎学期、原則として全学生・全科目を対象に実施しており、その結果は、学生の回答に対して、学習のアドバイス等に関する授業担当教員のコメントを付し、集計結果とともに、学生にフィードバックしている。また、調査結果は報告書としてまとめ、学内外に公表している。

#### <教育・研究指導改善アンケート>

大学院において、学生が所属する研究科の教育・研究内容を評価し、その結果を教育・研究環境の改善につなげることを目的として、「教育・研究指導改善アンケート」を毎年度末に実施している。

#### <公開授業>

各学期に「公開授業」の期間を設け、原則として全教員・全科目を対象にしており、教員同士が互いの授業を参観し、授業の改善や教育指導の充実のヒントを得る機会を図っている。

#### <FD・SDセミナー>

教育・学習環境の改善・向上のためのFDと、管理運営や教育・学習支援に係る資質向上を図るSDに関する研修として、「FD・SDセミナー」を年4回程度のプログラム構成で実施している。専任教員を対象に、一部は新任教員の参加を原則として必須としているほか、博士後期課程の大学院学生を対象にプレFDも兼ねており、2025年度は以下のテーマにて全4回実施した。

第1回「社会連携教育について」

本学における社会連携教育について、枠組みの説明と経験者の事例紹介を行った。  
第2回「FDへの学生参画について」

「学生参画FD」の政策状況や他大学事例について、外部有識者の講演を開催した。

第3回「春学期の振り返り」

新任教員同士で、授業や学生対応の経験を共有するとともに教員間のつながりを作る機会を提供した。

第4回「思考停止に陥らない生成AI活用」

教職員の関心が特に高いテーマについて議論するとともに、本学教員の教育・研究の取り組みについて知る機会を提供した。

### <ヨコハマFD・SD連絡協議会>

神奈川大学・横浜国立大学・横浜市立大学と「FD・SD活動の連携に関する包括協定」を締結し、合同事業として「ヨコハマFD・SD連絡協議会」を毎年開催している。近年、FDや教学マネジメントにおける「学生参画」の重要性が高まっているが、本協議会の特徴として、各大学の教職員の他、学生も参加して、教育と学びについて議論する機会となっている。

2025年度は横浜国立大学常盤台キャンパスにおいて、「初年次教育について考えるー大学での学びのスタートを支える仕組みとはー」のテーマで開催され、活発な議論が交わされた。

### <授業ツールボックス>

教員の授業（マイクロ）レベルの支援を目指し、「授業ツールボックス」を開発・公開している。「授業ツールボックス」では、授業運営の一助となるようアクティブラーニングを実質化するためのヒントや技法、活用事例、学生支援と合理的配慮、生成AIの活用に関する事例などを学習支援システム（manaba）上の「授業ツールボックス」に掲載することで、教員が当コンテンツに簡易に接続し、授業運営の改善に生かしやすいとなっている。また、指導補助者（TA）の研修にも活用している。

### <学部・研究科の支援>

学部に対しては、カリキュラムマップの策定、ルーブリックの作成、アクティブラーニング等の授業手法や、オンライン授業の手法の紹介、出前研修の実施等、多岐に渡って行っている。

研究科に対しては、2025年度に全学的な大学院FDとして、「大学院教育に関する意見交換会」を開催し、本学の状況を踏まえ、課題や方向性の理解と共有を図った。

## （2）研究活動の活性化等に関する取組み

研究の全学的推進及び総合的向上に加え、研究を通じて本学の社会的使命を達成することを目的に、総合研究推進機構を設置している。同機構では、公的研究費の適切な管理体制の整備やコンプライアンス及び研究者倫理の保持に向けて、必要な啓発、教育、研修の計画を策定し、継続的に実施している。実施結果については、「研究推進委員会」を経て「研究

倫理委員会」にて報告することで、適性や有効性の確認を行っている。

研究活動におけるリスクマネジメントの強化、研究倫理教育及びコンプライアンス教育等の実施や公的研究費の制度・執行に関する学内説明会の開催等に取り組み、全学的な研究活動の活性化等を図っており、「科研費等競争的研究費に係るコンプライアンス教育に関する研修」、「研究倫理教育研修会」を実施している。

教員の教育研究活動における資質向上を図るため、専任教員を対象とした教員業績システムを整備し、Web サイトで公開しており、その活用を全学的に推進している。

## **2. 学部・研究科の活動**

各学部においては、FD委員会等が中心となり、FD活動を推進している。また、研修教授会等を実施し、カリキュラムや学生支援のあり方等の振り返りや検討を行っている。非常勤講師に対しても、非常勤講師懇談会等を開催し、カリキュラムや授業環境などについて共通理解を深めている。

各研究科においては、FD委員会を設置するなどし、組織的なFD活動を図っている。